

日時：平成24年4月22日（日）14：00～15：50

場所：花川南コミュニティセンター 2階多目的ホール

【 当 日 の 内 容 】

14：00

- ◆ 開会

14：00～14：05

- ◆ 主催者挨拶（石狩市 総務部／佐々木 隆哉 部長）

14：05～14：10

- ◆ 地区別ワークショップの目的についての説明（事務局／株ドーコン）
  - ・ 自助、共助を基本とした地域防災力の向上！

14：10～14：15

- ◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
  - ・ グループ別意見交換の進め方
  - ・ 情報提供資料

14：15～15：30

- ◆ グループ別意見交換
  - ・ 想定される災害種別と被害の内容
  - ・ 地区特有の防災上の課題

15：30～15：50

- ◆ グループ別意見の発表
  - ・ 各グループ代表者から発表

15：50

- ◆ 閉会



## ◆グループ別意見の発表

### Aグループ（5名）

- ・地震は怖い。活断層も近くにあるのではないかと。
- ・住宅団地なので、地震による火災や逃げ遅れなどが危惧される。
- ・積雪時の避難方法を検討しなければならない。
- ・当地区の備蓄はきちんとできているかの確認も必要。
- ・災害時は協力し合い、みんなが助け合うことが重要である。
- ・助けてもらわなくては避難できない人、幼児や高齢者、障がいのある方などを把握しなくてはならない。また、誰が助けに行くかを考えておく必要がある。
- ・平日の日中は、若い人は働きに出ており家にいない。助ける人が不足する。
- ・組織づくりやリーダーづくりに取り組み、リーダーを中心に活動していくことが重要である。
- ・「備えあれば憂いなし」という気持ちを持って取り組んでいきたい。



### Bグループ（5名）

- ・津波、地震、地震に伴う火災、台風などが想定される。
- ・市民の防災意識が低いことは問題であり、今後、高めていくことが重要である。
- ・避難を考えた場合、花川通と流通通を結ぶことや花畔の11線を拡幅することが望まれる。
- ・高齢者の避難は重要な課題である。
- ・障がいのある方の避難方法及び避難場所での対応を検討する必要がある。
- ・民生委員を中心に市内の65歳以上の方の所在を把握しており、このデータの活用が有効と思う。
- ・リーダーの養成が重要である。
- ・自主防災組織はあるが、実際に活動していないところが多い。
- ・自主防災組織の活動が活発になるような地区防災計画を策定してほしい。



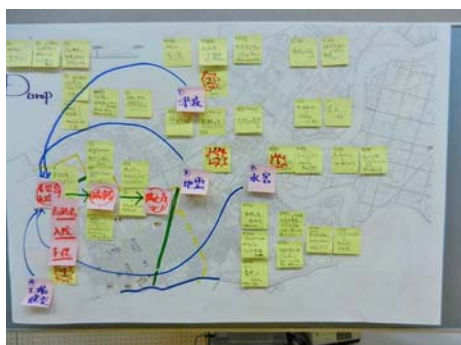
### Cグループ（5名）

- ・過去に床下浸水の経験があるが、整備が進んでおり、水害はそれほど心配していない。
- ・当地区では、新耐震基準前の建物が多いと思われ、地震時の倒壊等が危惧される。
- ・雪害対策の検討が必要だが、他地区に比べると当地区は良い方だと思う。
- ・避難場所の収容人数は、避難場所の立地や周辺の人口のバランスをみて見直す必要があるのではないか。
- ・災害時要支援者の避難対策が必要である。



### Dグループ（7名）

- ・過去に工場の爆発事故があった。
- ・水害、津波、地震の災害が想定される。
- ・高齢者など自分で避難できない人をいかに避難させるかが課題である。助ける側も高齢化している。
- ・石狩市から災害時要支援者のリストが送られてきている。個人情報であることに留意しつつ、このデータをどのように活用していくかが課題である。
- ・町内会長などの役職の方々だけが頑張っている状況は良くない。
- ・日常生活で近所づきあいを深め、助け合える関係を築くことが重要である。



## Eグループ（5名）

- ・市民は避難場所を把握していないかもしれない。
- ・災害が起きる時間帯によって、避難の方法や検討すべきことは異なる。
- ・中学校が避難場所となっているが、教員は避難についての説明を受けていないため何もすることができないと思う。教員が先頭に立って行動することが必要な時もあると思う。
- ・日曜日などの休日は、校長や教頭が近くにいない場合があり、学校を開放できない状況になり得る。これは大きな問題である。
- ・有珠山噴火時の避難体験から、行政と避難所との連絡体制や、近隣自治体における避難者の受け入れ体制が重要であると感じている。

